

事例No.6		
事業名	通常砂防事業（一級雄物川水系 小目倉沢）	事例キーワード 緑化、景観護岸、間伐材の利用
事業担当機関	平鹿地域振興局 建設部 河川砂防課	
事業期間	平成13年～15年	
実施場所	平鹿郡山内村土淵	
事業概要	全体事業費	1 8 3 百万円
	工事概要	砂防えん堤（1基） 渓流保全工 L＝187m（床固工4基）
	事業の目的	小目倉沢は保全対象として、「道の駅さんない」及び国道107号等を抱える土石流危険渓流である。流域内は、渓岸侵食により渓床内に厚く土石が堆積しているため、今後の豪雨により土石流発生の可能性が高く、発生した場合に甚大な被害が予想され、平成13年度から事業着手している。当渓流の特徴としては、建設発生土を有効利用した工法を採用するなど、環境負荷軽減に資する砂防施設の構築を実現している。また、自然との調和を図るため、地元林産資源の間伐材を有効活用しており、自然にやさしい砂防施設整備を実施したものである。
の環境 内容配 慮	1．建設発生土の有効利用の観点から、環境負荷軽減が実現した。 2．掘削法面及び埋戻し、盛土地の植生の復元を積極的に図った。 3．地元林産資源の間伐材を有効活用したことにより、自然との調和が図られた。 4．景観に配慮した施設整備を行ったことにより、地域住民・観光客等に親しまれる親水空間の創出に努めた。	
の施工 状況後	道の駅との調和も図られており、違和感のない砂防施設ができたことにより、親水空間・安らぎの空間の場を与えることができた。現在においても、道の駅に立ち寄った地域住民・観光客等に安らぎの空間を与えている。	
図面、写真、説明		
<div><div><p>流域全景（保全対象の「道の駅さんない」ほか）</p><p>道の駅さんない</p><p>至横手市</p><p>氾濫想定区域</p><p>砂防えん堤</p><p>渓流保全工</p><p>国道107号</p><p>至岩手県</p></div><div><p>砂防えん堤（前面を植生）</p></div><div><p>渓流保全工（景観に配慮した植石）</p></div><div><p>土留工（間伐材の有効活用）</p></div><div><p>橋梁工（間伐材の有効活用）</p></div></div>		